

どんびま

2010年9月10日発行
発行者 椛の湖農業小学校

鳥の時計

迷走した台風9号。北東に進んできた台風が向きを変えて、若狭湾から上陸して濃尾平野に向かった。台風が南下するなんてやっぱりなんか変だ。台風の後には又真夏の暑さが続いている。

朝日の昇る前から汗をかいてしまう陽気の中で、トマトハウスを越して斜めに谷を渡っていく声を見上げると百舌(モズ)だ。

去年とほとんど同じ日に里に来たことになる。去年は梅雨が8月まで長引き、今頃の朝夕は小寒い陽気だったのに、今年は猛暑の



影響で、酒米はすでに稲刈りが終わっている。夏の始まりを告げるツバメにしても、天候の違いに関わらず、ほとんど同じ日に姿を現す。鳥たちはいったいどんな時計を持っているのだろう。自然はまだ不思議でいっぱいだ。(草)

9月授業日案内

- 日程 9月26日(日)
- 受付 8:30~9:00
- はじめの会 9:00~9:15
- 授業 9:15~12:00

(栗拾い・稲刈り)

栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。

栗は有料です。時価で精算して頂きます。

- 昼食 12:00~13:00
(松茸ご飯、お吸い物ほか)
- 授業 13:00~15:00
(稲扱き(脱穀)・バケツ稲品評会)
- 終りの会 15:00~15:30

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、
着替え 買い物袋 食器、箸

☆バケツ稲を持参してください。

**品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
バケツごと持ってこられない方は、刈って
稲束にしてお持ち下さい。**

- 締め切り 9月22日(厳守)

- 問い合わせ・緊急連絡

Tel.0573-75-4417

090-5110-9362(山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

キャンプファイヤーは楽しい～

お盆明けからは毎日のように大雨に見舞われ、キャンプの前夜も朝まで豪雨でしたが、農小の人達は心がけが良かったのでしょうか！21日の夕方は雷も影をひそめ、夕立ちには会わずに済みました。

8月21日（土）

- 1 午前の授業。 畑の草取り、カボチャの収穫でした。今年は成積が良くて沢山採れました。農場長の手入れのおかげでした。
- 2 かぶと虫運動会。 7月に参加出来なかった人のために、8月も行われました。先月の再参加も含め17名が出場しました。

1位	4G	奥田翔太くん
2位	5G	沢村明日琉くん
3位	3G	山辺拓真くん颯人くん
- 3 キャンプ場へ移動。 残念ながら前日の雨による増水で、川遊びは中止となり、桜の湖オートキャンプ場へ移動しての昼食となりました。
メニュー おにぎり、きゅうりと茄子の浅付け、茹で卵、トマト。
- 4 ますつかみ大会。 午後はキャンプ場のプールを利用したの鱒つかみ大会が行われ、中には8匹もゲットした人がいました。
- 5 夜店の準備。 それぞれの家族で泊まるテントの設営などを済ましてからは、全員広場に集まって、夜店の準備に取りかかりました。
各グループの担当毎に お父さんお母さん達が腕をふるいました。
- 6 夜店の開店。 17時ころには夜店が開店し、楽しみのお食事タイムが始まりました。先生スタッフも参加しました。
焼きそば、いか焼き、串焼き、焼きおにぎり、唐揚げ、鱒の塩焼き、豚の丸焼き、フルーツポンチなどなど盛り沢山の料理が並びました。有料ながら生ビールも有りお父さん方は大満足！
ところが鱒の腹出しに参加した生徒の中には、食べられない人もいましたが、山内さんが云ってるように、人間は常に動物や植物の生命（いのち）を頂いて生きています。日頃からこれらに感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。
- 7 キャンプファイヤー。 火の長（おさ）を先頭に各グループ長の持つ松明（たいまつ）行列が廻りを囲み、火の長から火の神に感謝の言葉が述べられ、一斉に点火されると

赤々と燃えあがり、大きな歓声が上がりました。

キャンプファイヤーをかこみ♪燃えろよ燃えろよ♪と皆で合唱しました。

そのあとスタッフの加藤ゆう子さんの指導でゲームも行われ楽しそうでした。

8 グループの出し物。 キャンプファイヤーのメインはグループの出し物です。7月から相談・準備してきた歌やゲームを楽しみました。

1G 「〇×クイズ」

5G 「宝さがし」

3G 「魚つり」

2G 「歌」

途中で7月と8月に行われたかぶと虫運動会の表彰もありました。

最後は 4G 担当の「肝だめし」が行われ、悲鳴やら泣き声やらで大賑わいでした。

9 影絵。 毎年好評の影絵、今年の出し物は「ねずみくんのチョコッキ」と云うタイトルで、「さかした影絵サークル」の作品でした。

8月22日(日)

10 物作り体験。 朝食と片付けの後、農小に戻り、物作り体験教室が開かれました。

*木工 端材を利用した自由工作。

*竹細工 水鉄砲や竹トンボと花立てなど。

*染め物 Tシャツなどを利用した藍染め。

*布ぞうり 今年も昨年と同じ布を使った草履づくりに挑戦。

*紙すき 牛乳パック原料でハガキなどの紙漉きは、押し花入り等も製作。

*箸づくり 菜箸作りは実用向きでした。

11 案山子コンクール。 前月から作った案山子は36体ほどになり、仕上げで柵に立てかけ人気投票を行いました。1家族2票の投票権があり、先生やスタッフも夫々参加して頂き、計110票が投票されました。上位入賞者は卒業式に表彰されます。

12 流しソーメン。 田んぼの畦に案山子を立って帰った人から、真新しい竹樋を流れるソーメンを頂き、大好評でした。

13 終わりの会。 物作り担当者からの報告感想等があり、2日間無事に過ごす事が出来て、校長先生は大満足とお言葉でした。

14 持ち帰り。 今回はカボチャでしたが、久しぶりに全てを農小の収穫物でまかなう事が出来ました。有機無農薬栽培の農小カボチャを、多様な料理でご賞味ください。

～とくちゃんのちょっと一言～

物作りの作品は卒業式の「作品展」に出せるように仕上げてください。

～あぼ兄の百姓ばなし～

手は第二の脳

8月の農小はキャンプ。2日目は自由参加のものづくりだった。染物、布ぞうり作り、牛乳パックでの紙すきの他、木工は端材を使ってのペン立てや虫かごを、竹細工は水鉄砲、箸、花器などを作った。短い時間だったが親子で真剣に取り組む光景に感動した。

物質文明の中、物の余っている時代に、買ってくれば手間もかからず、かえって安く済むのに、そんな時代にあえて作ることに挑戦する。それは、生きるという頑張りや耐えるという力を忘れてしまい、自分の手で暮らしをつくる、限られた材料で工夫することをしなくなってしまった昨今、精神的な大事なものを豊かさの中で失ってしまっているからこそ値打ちがあると思う。

人間は道具を作り、使って生きてきた。特に百姓は仕事の道具作りから、石積みや小屋を建てることまで何でもやってきた。百色の仕事ができるのが百姓だと聞く。

かなり前になるが、あぼ兄の百姓ばなしの中に、「百姓のライセンス」をつくったらどうかと書いたことがある。たとえば言えば、石積みや大工仕事のできる人はA級とか、また主婦にしてみれば、布団作りのできる人はB級というような制度をつくって、災害などで出動した時などは優遇されるようなことはどうかという意味のことだった。

今の時代は分業化でその必要は無いかもしれないが、早い話が何でも出来る人になってほしいのが願いだ。

40年前あぼ兄たちは、全日本フォークジャンボリーの後、フィールドフォークと称して自作自演のフォークソングのように、自分たちが毎日使う茶碗などを自分で作る活動を始めた。手作りブームにのり「雑市楽座」という工房（20坪）まで建てた。そこには陶器用と木工用のロクロも置き、時々仲間が集まってものづくりをやっていた。仲間の中で何人かはプロ(副業)を目指して頑張った。中には陶芸家として独立した者もいる。

あぼ兄は竹細工の担当だったが、世はプラスチックの時代になり、竹製品は安価な輸入品に押されて、産業として成り立たなくなっていた。竹細工の生き残る道は芸術作品を造ることだったが、その能力も無く断念した。安心安全な野菜作りも「ものづくり」だと考えて専業農家になった。

そんな頃、鉛筆も削れない子、ころべば手が出ず顔を怪我する子、テレビっ子で体力の無い子どもたちが社会問題化していた。子ども達が野山で遊んだり、ものづくりなどをする子どもの国を作ろうと計画していた。それが今の農業小学校の設立につながる。

刃物は危ないから使わせないということで、本当にいいのだろうかと考えさせられる。長野県のある学校では四半世紀にわたって、鉛筆削り器を置かず、「肥後守」を持たせ続けていると聞く。子ども自身に危険に対する認識ができているから、大きなケガはないし、人にケガさせる事もないという。人間は刃物を使うことで文明を発展させてきたのだ。

わずかな時間のものづくりだったが、自分で道具を使いものを作ることは手先を鍛える。手は『第二の脳』だと言われる。

あぼ兄の手を見てくれ。脳は無いので、手が先に動く。

～かなちゃんの虫日記～

COP10をしていますか?? (こっふてんとよびます)

名古屋で10月にひらかれる会議のことで、
生物多様性条約第10回締約国会議ともいいます。

いろいろな種類のいきものがたくさんいると、
いきものや、環境や、人にとっていいことがあるよ。
まもっていきましょね!! ということも世界中の人と
たしかめあう会議です。

いきもの にとっていいこと

こどもをうんで、そのこどもが大きくなってまたこどもをうんで...
これをずっとつづけていける

環境 にとっていいこと

いきものによってたべたいものがちがいます。すると、
すまはしよもちがってきます。

いきもの	アメンボ	トンボ	カブト	クワ	カマキリ	クモ
たべもの	おし	おし	じゅんせつ くさた くだもの	ほっほ み	おし	おし
すまはしよ	池田川	池田川	森林	畑など	畑など	畑など

それぞれ場所をかえないようにがんばろう、と人が
とりにくすると、その場所がいい感じのままありつづけられます。

人 にとっていいこと

農小にきているみんなはとくにかんじていると思います。
畑や田んぼがある場所ってなんだかきもちいいですね。
いろんないきものがいるって、それ自体もおもしろいですよね。
いきものはたべたいものをたべて、すみたいところで生きてる。
人も たべたいものをたべて、すみたいところで生きてる。
いきものも人もしらはだと思ひます。なかよくしらはくらしていこう!